

1 趣 旨

- 豊田市交流館は、平成30年度に社会教育施設から一般行政施設へと位置づけを転換し、自立した地域社会の実現に向けた地域拠点として新たな舵を切った。これにより、営利利用の拡大と地域特性を活かした運営の2点を特に推進。
- 以後5年が経過したことを踏まえ、取組の振り返りを行いつつ、令和6年度生涯学習審議会において、交流館をテーマにこれからのあり方と方策について専門家や実践者とともに審議を行う。
- 交流館の現場では、指定管理者である文化振興財団の職員を中心に地域住民とともに日々共働による活動を行っている。審議会の議論については、中長期的な方針としてまとめつつ、交流館職員のモチベーション向上や取組の検討を目的に、交流館職員とともに考える機会を設ける。
※現実的なアイデア出しというより、「日頃のモヤモヤをはきだし共有しつつ、純粋な気持ちでワクワクする場」が狙い

2 内 容

日 程	8月29日(木)午後1時30分～午後3時30分
場 所	猿投北交流館 多目的ホール
参加者	交流館職員 41名 ※交流館課含む
内 容	<p>第1部 講演「交流館のしあさって」 講師:西山 佳孝氏、大里 みずき氏</p> <p>第2部 ワークショップ①「モヤモヤ交流館」 ワークショップ②「ワクワク交流館」</p>
運 営	文化振興財団交流館課 交流館のこれからプロジェクトチーム代表2名(交流館職員) 市民活躍支援課



◆講師から

- ・交流館は利用者が自ら楽しむところ
- ・交流館の仕事では何事も面白がれるかが大事



●交流館の利用

- ・利用者同士の交流を増やしたい
- ・若者の利用促進したい
- ・利用ルールの周知を上手に行いたい



●情報発信

- ・地域のイベントや講座などもっと発信したい



●働き方

- ・紙資料が多いため効率化が必要



●利用者とのコミュニケーション

- ・職員と利用者の交流を増やしたい
- ・外国人とのコミュニケーションを上手に行いたい
- ・業地域外に出る機会不足

